

한통련 뉴스레터

제29호

発行:在日韓国民民主統一連合（韓統連）

〒110-0016 東京都台東区台東4丁目31-7-302 電話/FAX 03-4362-5284

メール chuo@korea-htr.org ホームページ <https://chuo.korea-htr.org/>

ニュースレター配信をご希望の方はchuo@korea-htr.orgまでご連絡ください。（メールにお名前をご記入の上、件名に「韓統連ニュースレター配信希望」とお書きください）

정세 情勢

●南北首脳が親書交換…文大統領「対話で対決乗り越えるべき」、金委員長「努力すれば関係発展」



板門店宣言署名後握手する文在寅（ムン・ジェイン）大統領と金正恩（キム・ジョンウン）委員長（2018年4月27日）

大統領府は4月22日、文在寅（ムン・ジェイン）大統領が朝鮮の金正恩（キム・ジョンウン）国務委員長（朝鮮労働党総書記）に20日に親書を送り、「対話で対決の時代を乗り越えなければならない」と呼びかけたと明らかにした。また、南北関係について、「残念な瞬間と胸がいっぱいになる記憶が交錯するが、金委員長と手をつなぎ、朝鮮半島の運命を変える確実な一歩を踏み出したと思う」と表明。「朝米対話が早期に再開されることを希望する」として、「対話再開は次の政権の役割となった。金委員長も朝鮮半島の平和という大義を持って南北対話に臨むことを期待する」と促した。また、南北首脳による2018年4月の板門店宣言と同9月のピョンヤン共同宣言に触れ、「宣言などが（南北）統一の土台にならなければならない。平和の動力が回復することを信じて待つ」と記した。朝鮮中央通信も22日、南北首脳の親書交換を報道した。金委員長は21日に返信し、「お互いが希望を持ち努力を傾ければ、北南関係は民族の念願と期待に沿うよう改善され発展する」とし、両首脳が歴史的な共同宣言を発表し、全民族に未来への希望をいだかせ

たことを回顧しながら、「任期の最後まで民族の大義のために努力した文大統領を高く評価する」と伝えた。

尹錫悦（ユン・ソンニョル）次期政権の統一部長官候補、権寧世（クォン・ヨンセ）氏は22日、南北首脳が交わした親書について、記者団に「文大統領（だけ）でなく、新政権に望む内容もかなりある」と述べた。また、「基本的に南北関係の信頼や進展については否定的にみしていない。その部分は極めて肯定的」との認識を示した。権氏は「二人は何度か対面したため、（文大統領の）任期末に親書を交換することはよいことだ」と述べた。

朝鮮半島情勢が厳しい緊張状態に置かれ、南北関係がこう着状態にあるとしても、南北関係は断絶されていなかった。2018年に首脳会談を3回にわたり開催し、二つの貴重な南北合意を導き出した両首脳の間、深い信頼感とそれを基にした疎通が続いていたことが、今回の親書交換で明らかになった。親書で文大統領は「対話で対決の時代を乗り越えなければならない」と呼びかけ、金委員長は「お互いが努力すれば、関係は改善し発展する」と応えた。さらに、両首脳は共同宣言＝南北合意の意義と成果を強調し、文大統領は対話再開を次の政権の役割と明示した。尹次期政権の対朝鮮強硬政策に沿いながら、権氏は「（朝鮮の）非核化なくして南北関係の正常化はない」（14日）と発言していたが、親書交換とその内容については肯定的に評価した。今回の親書は尹次期政権に「南北関係は生きている」「南北合意を順守しながら対話で南北関係を改善しよう」とメッセージを送った。次期政権はしっかりと受け止めなければならない。

●文政権が進める検察改革…国会議長の仲裁案で与野党合意



仲裁案合意文を公表後、拍手するパク・ホングン「共に民主党」院内代表（左）、パク・ビョンソク国会議長（中央）、クォン・ソンドン「国民の力」院内代表（右）

与党「共に民主党」が検察改革の一環として推進する検察から捜査権を除外する法案をめぐる、朴炳錫（パク・ビョンソク）国会議長が提示した仲裁案を同党と第一野党「国民の力」が受け入れる意思を4月22日に明らかにし、4月の臨時国会でこれを処理することで合意した。与野党が受け入れた仲裁案には、検察の直接捜査権と起訴権を切り離し、現在、検察が捜査を担う「6大犯罪」の中から公職者犯罪、選挙犯罪、防衛事業犯罪、大規模惨事をはじめ内容が盛り込まれた。残りの腐敗・経済犯罪に対する直接捜査権も、「重大犯罪捜査庁」の設置後に廃止される。同法案は、「共に民主党」が15日に国会に提出した、検察の捜査権の全面的廃止などを盛り込んだ検察庁法および刑事訴訟法改正案。同党は提案理由として「検察の国家刑罰権の行使において、公正性と客観性が担保されておらず、検察が身内を守るような捜査や起訴が繰り返されている」とし、「令状の請求や公訴の提起、維持を専門に担当する機関として検察のあり方を再確立して、国民の信頼を回復させる」と説明。4月中の成立を目指した。一方、大検察庁（最高検）は「犯罪捜査をすべて警察に独占させ、検事はひたすら警察が捜査した記録だけを見て、嫌疑が不足していれば警察に再び送り、嫌疑があれば裁判所に起訴する役割にとどまらせている」と指摘、憲法違反と非難した。

キム・オス検事総長は17日、法案提出に反発して辞職願を提出。文在寅（ムン・ジェイン）大統領は18日、金検事総長と会談し「国民が検察の捜査能力を信頼しているのは確かだが、捜査の公正性を疑うのも事実」とし、「検察も自己改革と自浄努力を続けなければならない」と指摘、検察側が集団で反発する動きを見せていることについては否定的見解を示した。そして「改革は検察や警察の立場を離れ、国民のためにならなければ

ならない」「国会の立法もそうしなければならない」と強調した。この後、金検事総長は任命権者の意思を尊重するとして、職務を続ける考えを表明した。しかし、与野党が仲裁案に合意したことを受け、検察側は再び強く反発。検事総長は「このすべての状況の責任を取り、辞職願を提出する」と表明し、大検察庁次長検事や各高等検察庁のトップも一斉に辞意を表明した。大検察庁は、仲裁案はこれまでの検察捜査権完全剥奪法案の施行時期を遅らせるものにすぎないとし、「法案が最終的に通過するまで法案の不当性や問題点を広めていく」とのコメントを出した。



25日、記者会見で検察の立場を語るキム・オス検事総長

いわゆる検察改革は文政権が追求してきた政治課題。検察が政治的・恣意的に行使する過度な独占的権限を、抜本的に制限し是正することを法改正を通じて実現するものであり、基本的には検察の捜査権を廃止し、検察を起訴権の行使に専念させることを求める。検察側は、検察出身の尹錫悦（ユン・ソンニョル）次期大統領と野党「国民の力」の「努力」に期待しながら、検事総長を頂点に総力をあげて既得権益を死守しようと抵抗した。政権側は、次期政権の政治・検察一体化を防ぐためにも、検察改革の総仕上げとなる同法案を文政権の任期内に通過させることを至上課題とした。最終的に国会議長の仲裁で決着したが、与野党側の意向はほぼ実現したものとみられる。今回の件では、警察庁は国会論議を尊重するとしながらも、検察側の「警察力量が不足（検察の捜査力で補完すべきとの考え）」とする指摘には「6大犯罪を検察より多く処理した」と反論し、警察職長協議会（5万3000余人）は検察から捜査・起訴権を完全分離することに賛成していた。韓国の検察はその過剰権力を盾に政治検察として君臨してきた。検察が権力におぼれて政治に介入し、「自己改革と自浄努力」（文大統領）を怠った結果が今回の状況を招いた。検察は政治的中立を守り法の正義を公正に実現することで、国民の信頼を得なければならない。

●韓青が四月革命62周年を記念し声明を発表

4月19日、在日韓国青年同盟（韓青）が四月革命62周年を記念し、「四月革命62周年 在日韓国人青年声明」を発表した。

声明－四月革命62周年 在日韓国人青年声明

今日、私たちは民族史に燦然と輝く四月革命から62周年を迎えた。

2022年現在、祖国の自主と平和、そして統一を巡る状況は深刻な危機に瀕している。去る3月9日に行われた第20代韓国大統領選挙では史上稀に見る僅差で「国民の力」尹錫悦候補が当選した。「不平等社会の打破」「積弊清算」を掲げたキャンドル革命は、歴史的な市民革命の勝利からたった5年で政権交代を許す結果となってしまった。

尹錫悦当選人は選挙期間中に「滅共」アピールや朝鮮への先制打撃を主張するなど、南北関係において反統一的・好戦的な本性を全面に押し出していた。また徐旭国防部長官も朝鮮への先制打撃に言及するなど、文在寅政権下で実現した南北対話の成果は風前の灯火となっている。朝鮮政府は徐旭長官発言を厳しく非難しながらも「戦ってはならない民族同士」と強調し、戦争の意志がないことを示した。しかし現状は、偶発的な事故が起きれば全面戦争に突入しかねない緊張状態がしばらく継続するものと考えられる。これらの対立局面は韓国が建国以来抱えている歴史的な構造が原因であり、戦争の危機を回避するためにも社会の根本的な改革が今再び求められている。

韓国のすべての闘いの原点は四月革命にある。日帝植民地支配から解放された祖国は支配力の維持を図った米国の手によって人為的に分断させられた。李承晩政権はその米国の援助を受けて誕生し、朝鮮戦争に乗じて軍事統帥権を米国に明け渡したことをはじめ、米国の傀儡（かいらい）政権として民衆の生命を脅かす独裁政治を敷いた。度を超える不正選挙で自らに権力を集中させたことや、対立する政治家にスパイ容疑をでっち上げ処刑するなど、民主主義の根本を踏みじじる暴挙が横行していた。

「生きられない！変えよう！」殺人も厭わない独裁政治に韓国全土が立ち上がった四月革命は、多くの血が流れる中で大統領を下野にまで追い込んだ。その後、米国の後押しを背景に5・16クーデターで権力を奪い取った朴正熙軍事独裁政権は、反共の旗のもとに四月革命の成果を軍靴で踏みじり、再び独裁の時代が訪れた。しかし、四月革命の正義の戦いと勝利は海を越え私たちを在日同胞に大きな希望を与え、その成果として韓青が誕生し四月革命精神を海外においても継承・発展させている。

尹錫悦政権発足を間近に控える今日、四月革命精神を継承する私たちは闘争心を再び燃え上がらせている。選挙期間中に進歩党をはじめ労働者や青年学生が主張したように、韓国社会の次なる課題は「政権交代ではなく体制交代」の実現である。巨大政党や司法権力、外勢の都合で振り回される建国以来の歴史的構造を打破し、民衆が国家の意思を決める大韓民国に生まれ変わることが、今日における四月革命の完遂だと言える。

また、軍事的緊張をもたらした米国の依存を深めるだけの韓米合同軍事演習は「百害あって一利なし」の行為であり、尹錫悦次期大統領が言及している機動訓練の再開などはもってのほかである。仮に尹錫悦政権下で韓米機動訓練の再開や韓米日合同軍事演習が実施されようものなら、全米衆的な反対闘争に直面することは避けられないだろう。尹錫悦次期大統領が夢見る親米・親日的な国家運営、公安弾圧吹き荒れる検察共和国の展望は民衆の糾弾によって必ず頓挫するということを強く警告する。

私たちは四月革命精神を継承する在日韓国人青年として、朝鮮半島の平和と韓国の民主主義の後退を決して容認しない韓国民衆、国内青年学生と固く連帯し闘っていくことを決意する。

2022年4月19日
在日韓国青年同盟

●大阪、広島で「私はチョソンサラムです」上映会を開催

△大阪上映会



トークショーで語り合う出演者たち。左からキム・ソンヘ氏、イ・ヒャンデ氏、キム・ユンサ代表委員、イ・チョル代表

昨年8月に好評を得たドキュメンタリー映画「私はチョソンサラムです」の大阪上映会（主催：同実行委員会）を4月24日、東成区民センター大ホールで再び開催した（2回上映）。

1回目の映画上映後、映画に出演した在日韓国良心囚同友会の李哲（イ・チョル）代表、大阪朝鮮高級学校オモニ会元役員の李香代（イ・ヒャンデ）氏、韓統連大阪本部の金隆司（キム・ユンサ）代表委員を招いてトークショーを開催。映画の日本語字幕を担当した金聖恵（キム・ソンヘ）氏が司会を務め、初めて映画を見た時の感想について質問すると、「在日同胞の歴史がよくまとめられている映画だった」「在日同胞が差別を受けながらも、しっかり生きていく様子が描かれ、元氣と勇気を与えてくれる内容だった」などの感想が語られた。

その後、獄中で出会った長期囚に対する想い、韓国で上映会を開催した時の反応などが語られるとともに、「南北が平和統一を実現し、日本と互恵平等の関係になってこそ差別はなくなる」「若い人たちには日本に住んでいても、民族心を忘れず生きてほしい」などのメッセージが述べられ

た。

△広島上映会

4月24日「『私はチョソンサラムです』広島上映とトークイベント」が広島市内で開催された。主催は同上映実行委員会。

実行委員会を代表し韓統連広島本部の尹康彦（ユン・ガンオン）副代表委員が開会あいさつ。尹副代表委員は「在日朝鮮人と祖国の厳しい現状を初めて知った時の記憶が思い出された。この映画が韓日・朝日の新たな関係づくりの一步になれば」と語った。

上映後のトークイベントでは、映画に出演した三人が登壇。京都朝鮮中高級学校オモニ会元会長である朴錦淑（パク・クンスク）氏は、京都の朝鮮学校襲撃事件や高校無償化裁判を通じ「憎しみや憎悪心では聞えない。愛と希望が闘う力になる。」と強調し、韓国問題研究所の康宗憲（カン・ジョンホン）代表は、「韓国で政治犯として拘束され死刑判決を受けたが、釈放され無罪を勝ち取った。だからこそ誰よりも幸せになりたい」と語った。韓統連大阪本部の金昌五（キム・チャンオ）副代表委員は「祖国の運命と在日同胞の運命は深く結びついている。在日同胞の生き方が、祖国の運命を左右するという気概が必要」と強調した。

最後に実行委員会から日本軍「慰安婦」問題解決ひろしまネットワークの岡原美知子事務局長が閉会あいさつ。「このままずっと三人の方の話聞いていたい。映画とトークイベントで知らなかったことを多く学ぶことができた」と語った。

행사예정 行事予定

5月

第25回統一マダン神戸・プレイベント

日時：5月14日（土）開場13時30分 開始14時 場所：ピフレホール3階会議室A 内容：講演「韓国・尹錫悦新政権と朝鮮半島の平和の行方～再び統一の風は吹くのか～」（講師：宋世一委員長） 参加費：800円 主催：統一マダン神戸実行委員会 連絡先：090-5016-6352

第25回統一マダン神戸

日時：5月29日（日）11時～15時 場所：若松公園・鉄人広場 内容：民族文化ステージ、韓国・朝鮮料理をはじめとした屋台など 参加費：無料 主催：統一マダン神戸実行委員会 連絡先：090-5016-6352

6月

第27回統一マダン生野

日時：6月5日（日）正午～ 場所：生野区巽公園（ロート公園）内容：ステージ（パフォーマーちゃんへんによるジャグリング、民族楽器演奏、朝鮮舞踊など）、韓国・朝鮮料理をはじめとした屋台 主催：第27回統一マダン生野実行委員会 連絡先：06-6711-6377

来月にはよいよ韓国で新政権が出帆します。閣僚候補の経歴問題ですでに混乱している状況ですが、私たちはどんな政権であれ、変わらず祖国の平和・統一を訴えていきたいと思えます（李）